

Museum News

モノはモノにしてモノにあらず

附属総合ミュージアム 館長 横川公子



物はモノを言わない。
しかし人の手で作られたものであれば、何らかの価値がモノを言うようになる。作る過程では、モノをめぐる様々な想いが交錯する。まずモノの使用目的は何か、目的に合った材料や形態、使い勝手、外観や装飾、作業技法、作業者、費用等々、様々な条件が検討され、計画される。その結果、作られたモノは、洗練された技術や形態の粋などを積み重ねた存在となる。
使用者や所持者との関係になると、さらに多様な価値が付加される。柳宗悦が日常雑器を民芸と呼んで、多様な価値を主張した

ことは周知のことであるが、美術品といわれるモノでなくとも、美的な価値や宗教的・倫理的な価値を帯び始めるということなのだ。
こうしてモノは饒舌に語り始める。モノはモノにしてモノに留まらない存在として、我々の生活世界や歴史の中に息づいているのだ。生活の美学は、そうしたモノの様態に注目する学術的営為の一つである。
ミュージアムにおけるモノにまつわる発見は、ちょっとした視座の変化に応じて、わくわくするような豊穡な価値を湛え始めると思う日々である。

1階ロビー 2023年度秋季展示 「絵更紗きぶん。」展 開催中!

開催期間：2023年9月8日（金）～12月15日（金）



現在 IR 館 1 階ロビーで展示をしている「絵更紗きぶん。」は、9月4日～8日にかけて附属総合ミュージアムで博物館実習をおこなった本学学生6名が企画・展示をおこない、紹介文も手がけました。学生たちの実習の成果を、ぜひご覧ください。

「絵更紗」は大正初期に元井三門里が考案した染色手法です。「絵更紗づくり」は普段着に着物を着ていた人たちの「粋な趣味」として広まり、1950年代には本学被服学科で実習が開講されました。

今回展示しているものは、竹尾千代さんという女性が夫亡き後、70歳ころから趣味として制作した作品たちです。私たちは実習を通して、ファストファッションとは違ったハンドメイドならではの個性を感じました。楽しんでご覧いただければと思います。
(実習生一同)

5階ギャラリー
2023年度秋季展

「近代のきものがみた夢」展 開催中!

開催期間：2023年10月4日(水)
～12月6日(水)
開館時間：平日 10:00～16:30
土曜 10:00～15:00
閉館日：日曜



本展示は、当ミュージアム所蔵の近現代のきもの資料を対象としますが、同様な展示はすでに10回を重ねています。今回取り上げたテーマ「近代のきものがみた夢」は、今までの展示の総集編の一つであり、明治後期から昭和戦前期の生活の中で受容され、体験され、吟味された肌触りや、きものという仕掛けに注がれた想い、それらの基底に共有されていた身体感覚のような感受性について問い直そうとする企画です。これらの多彩な、それ故に独自の、強烈なオーラを放つきもの類を通して、現代のわれわれの生活文化を顧みるヒントが見つければ幸いです。



講演会 「手仕事の技術革新がひらいた意匠」

11月18日(土)、開催中の展覧会に関連するイベントとして、講演会「手仕事の技術革新がひらいた意匠」を、日下記念マルチメディア館1階メディアホールとオンライン同時開催で開催しました。講師の大久保尚子先生(宮城学院女子大学教授)からは、展示されている資料のなかから「注染」という伝統的な型染の方法でデザインされた浴衣を中心に、「注染」という伝統技術の歴史や近代化に伴う変化、技術革新によって生まれた新たな意匠などについて、詳しくお話いただきました。



ミュージアムサロン



11月22日(水)、2019年以来となるミュージアムサロンを開催しました。参加者は、鳴尾町にお住まいのご婦人方9名と「日本の現代文化」を受講する本学4回生15名です。展覧会を一緒にみながら「どの着物が魅力的か」をそれぞれコメントし、グループ毎に「未来に残したいモノ」について話し合いました。そして「残したいモノでどんな展覧会をしたいか」という提案を各グループで発表。「たくさんのお話ができた」という鳴尾マダムの声が印象的でした。

「博物館実習」を 実施しました

本学には博物館などで資料を扱う専門職「学芸員」の資格を修得するコース「博物館学芸員課程」があり、ミュージアムでは実習の指導をおこなっています。今年度は26名の学生が資格修得を目指して講義を受講しています。夏休み期間には実際の博物館施設での実習をおこないますが、去る9月4日から8日の5日間、本ミュージアムでの実習に6名が参加しました。

初日には横川館長の講話を聞き、書籍などの資料整理と登録作業を体験しました。2日目から5日目は、1階ロビー「絵更紗きぶん。」展の企画と展示をおこないました。また、学生にミュージアム来館を促すための方法について協議しました。学生たちの「絵更紗きぶん。」展の企画・展示の様子を紹介します。



絵更紗とは何か。いわれや時代背景、作者について学び、資料を吟味して、何をどのように伝えるか話し合いを重ねます。展示リスト作成、写真撮影をして記録書を作成し、キャプション（解説文）プレートを作ります。

資料と展示ケースを清拭し、テーマに沿って資料とキャプションを配置します。見学者が理解しやすいよう、展示には細部まで気を配ります。



実習に参加した学生です。彼女たちの新鮮な視点で捉えた「絵更紗きぶん。」の展示を、是非ミュージアムにてご覧ください！

ミュージアムの SNSが 始動しました!

附属総合ミュージアムの展覧会情報やイベント、ミュージアム資料の紹介など、附属総合ミュージアムについてさらに多くの方に知っていただくため、公式 SNS をスタートしました!!
ぜひフォローして、情報をチェックしてくださいね!!



「武庫川女子大学附属総合ミュージアム」で検索してください! アイコンのミュージアムラビーちゃんが目印です。
ミュージアムについて発信する時は、ぜひ **#おこじょミュージアム** を付けてくださいね!!



ミュージアム 今後の予定

- ・ 2024 年 1 月下旬～ 博物館実習生による企画展示
- ・ 2024 年 3 月 紀要・年報発行予定
- ・ 2024 年 4 月中旬～ 春季展

2023 年度秋季展 (12 月 6 日まで)・1 階ロビー展示 (12 月 15 日まで) 終了後は、5 階ギャラリー・1 階ロビーともに年明けまで休室となります。

武庫川女子大学附属総合ミュージアム Museum News no.7 2023 年 11 月発行

663-8558

西宮市池開町 6-46 学術研究交流館 (IR 館) 4・5 階 Mail haku@mukogawa-u.ac.jp

TEL (0798) 45-3509 / FAX (0798) 45-9994

HP <https://www.mukogawa-u.ac.jp/~museum>

Museum HP



MAP

